

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

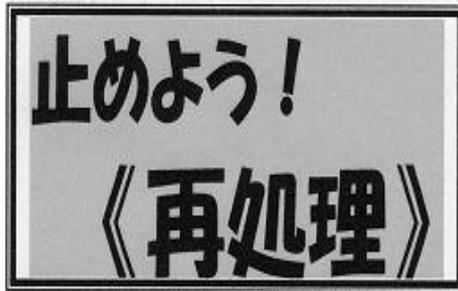
郵便振替 02240-5-102650

《岩手の環境/R1廃棄物/再処理》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



天恵の海を守ろう!

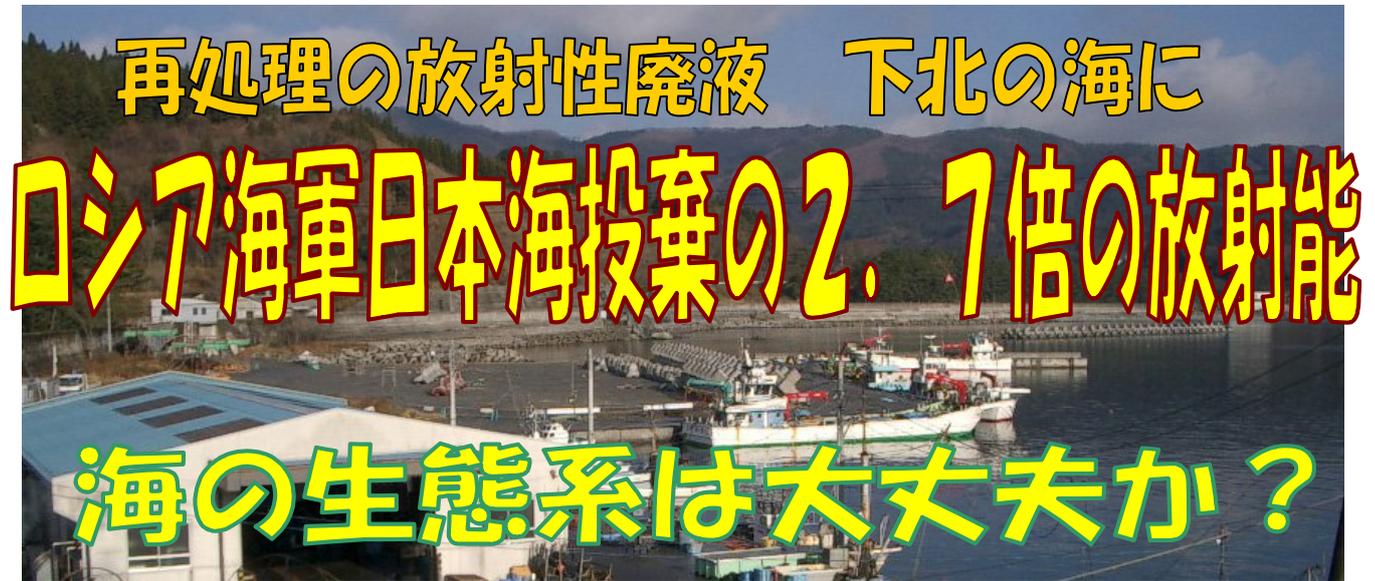
2008 (平成20) 年

5月 5日

第53号 (訂正版)

編集事務局 S・OSHIDA

TEL・FAX 019-623-1636



3月末までの使用済み核燃料再処理状況

第1ステップ 06年3月31日～6月26日

使用済み燃料 67体 ウラン(換算) 31ト

第2ステップ 06年8月12日～12月6日

166体 ウラン60ト

第3ステップ 07年 1月29日～4月26日

319体 ウラン70ト

第4ステップ (第5ステップ前倒し分もあり)

07年8月31日～08年2月13日

551体 ウラン160ト

(*第5ステップ3月中は 8体 ウラン1ト)

累計1111体 ウラン322トを処理

*高レベル放射性廃液推定161ト貯蔵

(処理ウラン1ト当たり0.5ト貯蔵として計算)

11月4日～1月18日までガラス固化体製造

試験 高レベル放射能廃液から57本の固化体

製造(3本の不良品と合わせ60本)

*第5ステップ 2月14日～(ガラス固化は中断)

3月31日～4月13日 ウラン34ト切断し、中断

(株)日本原燃ホームページは、四月二八日、六ヶ所再処理工場の三分の放射能廃液放出量を発表しました。二年前アクティブ試験を強行して以来の放射性廃液の累計は、トリチウムが一八兆ベクレル、ヨウ素129が三億三〇〇万ベクレル、ヨウ素131が七三三万ベクレルに達しました。本格稼働した場合の放出放射性物質管理目標値の毒性(経口致死量)は四万七〇〇〇人分と計算出来ませんが、トリチウムの一八〇〇兆ベクレルは本格稼働時の一〇%です。

ロシア海軍による原子力船解体に伴う放射性廃棄物の日本海投棄が一九九三年一〇月に問題になりました。当時のロシア政府海洋投棄調査委員会調査報告書(「ヤブロコフ・レポーター」)によれば、「ロシアによる日本海とその周辺への液体・固体の放射性廃棄物の投棄は一九五九年以来、六五七兆ベクレル」と記されています。ということは、ベクレル比でその二・七倍に達する放射性廃液が、六ヶ所再処理工場から海に流された事になります。当時マスコミと政府は大々的に報じ日本中大騒ぎになりロシアに抗議しています。それに比べて今回はなぜマスコミ等で取り上げないの不思議な事です。

ロシア(1959～93) 657兆ベクレル
日本(2006～8) 1818兆ベクレル

アクティブ試験開始以来の 六ヶ所村再処理工場海洋放出放射性廃液量 ベクレル数

	使用済み燃料(体)	処理ウラン量(ト)	放出回数	トリチウム(ベクレル)	ヨウ素129(ベクレル)	ヨウ素131(ベクレル)
2006年度	508	140	60	497兆	9424万	310万
2007年度	603	181	74	1320兆	2億3872万	463万
両年度合計	1111	322	134	1818兆	3億3296万	773万
全稼働時から見た割合				10.10%	0.77%	0.00%
年間管理目標値(全稼働)		800		1京8000兆	430億	1700億

(株)日本原燃ホームページから集計

～放射能を海に流さないで～ 豊かな三陸の海を守る市民集会inみやこ

5月25日 午後1時 宮古市民会館

写真は宮古市・藤の川海水浴場・埋め立て計画を撤回させた歴史があります

豊かな三陸の海を守る
市民集会inみやこ



～放射能を海に流さないで～

5月25日(日) 午後1時～ビデオ上映
午後2時～市民集会

宮古市民文化会館中ホール

主催 豊かな三陸の海を守る市民集会 in みやこ実行委員会
《問い合わせ》山田 0193-82-3736(田村)
宮古 0193-62-1164(菅野)

「豊かな三陸の海は子孫世代までのもので、三陸の海を守るために、五月二十五日、宮古で市民集会が開催されます。」
四月一八日に市民集会実行委員会が結成され活動が開始されました。放射能による海洋汚染を止めさせるため、多くの三陸沿岸住民、漁業者から協賛の申し出があり、全国各地の消費者や市民からも支援の力が伝えられています。広範な人々の結集により豊かな三陸の海を守りましょう。

プログラム

13時 **ビデオ上映**
○ 活動報告

14時～16時 **市民集会**
○ 主催者基調報告
田村剛一実行委員長

○ 各団体報告
わかめの会(仙台)
三陸の海を放射能から守る岩手の会
子どもと海と空の会 サーファー

○ 意見報告
沿岸各漁協組合員 生協組合員
日本野鳥の会宮古支部 一般市民等

○ メッセージ
全国支援者、 県内市町村長
沿岸選出県議会議員 県内国会議員

○ 集会宣言

国会議員が 再処理工場視察

超党派の国会議員で組織する「公共事業チェック議員の会」の近藤正道参議院議員(社民)ら四議員は、四月五日、青森県六ヶ所村の核燃再処理工場を視察しました。記者会見した「議員の会」は、工場北東の「出戸西方断層」について、再処理工場の下を通っている可能性があり、納得出来る説明がなければ、「五月の本格稼働は容認出来ない」という見解を示しました。

韓国からのポリ容器の漂流物が日本海沿岸に一年前から多数流れ着き始めました。容器の大きさは一八センチで、色は青、白、黒、灰のものが確認され、その多くにハンダグ文字が書かれています。津軽海峡を通り、三陸の沿岸にも流れ着いている模様で、津軽暖流の動きが分かります。

三月末に三陸沿岸を探索しましたが、サーファ―から「見た」という報告を受け、三個のハンダグ製品を発見しました。その後サーファーから六ヶ所再処理工場リーダー施設下の海岸からポリ缶発見の情報と写真が届いています。(右・写真)

「子どもと海と空の会」事務局・望月達也
kodomo_umi_sora@yahoo.co.jp



「ハンダグ」漂流物発見